Ｐ12　第９回蔚山くじら祭り参加報告

平口哲夫（金沢医科大学），蛭田　密（Aquatic Animal Consulting）

A field report of the 9th Ulsan Whale Festival.

Tetsuo Hiraguchi (Kanazawa Medical University), and Hisoka Hiruda (Aquatic Animal Consulting)

2003 年 5 月 30 日(金)～6 月 1 日(日), 韓国蔚山広域市チャンセンボ海洋公園と蔚山大公園で開催の第 9 回蔚山くじら祭りに参加した体験をホリスティック（全体論的）な視点から報告する．

蔚山広域市南区主催・蔚山くじら祭り推進委員会主管のもとに開催される当イベントは，基本計画案によれば「クジラと共に！蔚山と共に」をテーマに，以下のような開催目的を掲げている．

１）　世界的な文化遺産である盤亀台岩刻画によって示される先史時代捕鯨の視点から蔚山の捕鯨史を見直し，その文化的価値と象徴性を国内外に認めてもらう．

２）　地域の鯨関連の観光資源を通じ，「蔚山くじら祭り」を蔚山の代表的な祭りから世界的な祭りへと発展させる．

韓国慶尚南道蔚州郡彦陽面大谷里の盤亀台岩刻画は，韓国においても先史時代に捕鯨が行われていたことを示しており，きわめて重要であることから，韓国の国宝に指定されている．しかし，通常はダムに水没しており，冬の乾季に水位が下がったときに水面に顔を出す状態であることから，保存上の問題が指摘されている．そこで，この岩刻画をユネスコの世界遺産に指定する運動を展開することにより，抜本的な保存対策がとられるようにしたいと演者らは考えている．

一方，明治時代に日本の影響で開始された韓国捕鯨は，第二次世界大戦が終わって韓国が独立してからも蔚山を基地として捕鯨が継続され，ＩＷＣ（国際捕鯨委員会）により捕鯨禁止されてからは捕鯨再開の運動が蔚山でも行われるようになった．その一環として 9 年前から蔚山くじら祭りが開催されるようになり，それとともに盤亀台岩刻画は学術ばかりでなく観光・地域興しの点でも注目されるようになった．

以上のように新たな様相をみせている韓国社会における鯨類・捕鯨関係の諸事情を把握するとともに，盤亀台岩刻画の保存対策を検討するために現地調査を行うことにした．

１）蔚山くじら祭りを見学し，主催者や参加者との交流を通して現在の韓国捕鯨文化の実態を把握するとともに，盤亀台岩刻画を世界遺産に指定する必要性をうったえ，保存方法や指定運動について意見交換をする．

２）盤亀台岩刻画の保存方法を検討するため，現地を訪問，現状を把握し，また訪問者一行と意見交換をする．

３）慶州博物館を訪問し，保存方法や指定運動について館員諸氏と意見交換をする．

なお，今回の日本訪問団は，日本捕鯨協会組，共同船舶社内旅行組，東京組，大阪組，下関組，九州組，有川町組，以上 9 組で構成されている．平口が仲間入りした大阪組は，5 月 30 日(金)に大阪（関西空港）発 7：45 の JL967 便で釜山着，そこで蛭田と合流，ツアーバスで釜山から蔚山に向い，16：40 分開催のレセプションならびに 19：30 分からの開幕式に出席，蔚山の現代ホテルに宿泊．翌 31 日は，ツアーバスで盤亀台を見学後，さらに慶州を見学，釜山のグランドホテルに宿泊．6 月 1 日，釜山発 12：00 の JL968 便で大阪（関西空港）へという日程である．

日本海セトロジ―研究会第 14 回大会発表要旨集(2003)から転載